

名誉会員

川崎孝人博士のご逝去を悼む

本学会名誉会員 株式会社東京ソイルリサーチ顧問 川崎孝人博士には悪性リンパ腫のため、2003年2月28日12時40分、築地の国立がんセンター中央病院にてご逝去されました。享年73歳でした。

川崎さんは、島根県江津市の石州瓦本舗の家柄の次男として、昭和4年6月27日、父君が工場を営んでいた山口市でお生まれになり、浜田中学ご卒業の後、日本大学に通われながら、親戚の大崎頼彦博士の下で、昭和27年より建設省建築研究所の助手として関東ロームの性状の研究など地盤工学の研究に従事されました。昭和32年、日本大学を卒業後、株式会社竹中工務店に入社、同社技術研究所地下構造部門に配属され、同40年主任研究員、同45年主席研究員、同51年所長補佐、同56年より株式会社竹中土木取締役を兼務、同62年研究所次長を経て、平成2年、株式会社竹中工務店を定年退社され、引き続き株式会社東京ソイルリサーチに常務取締役として入社、平成3年専務取締役、同7年常任顧問、同9年より、同社顧問を歴任されました。

土質工学会（現在の地盤工学会）では、昭和43～44年度参与、昭和56～57年度理事、昭和61～62年度監事を勤められ、昭和42年には、「大口径グイの載荷試験方法と試験結果検討法の開発」で土質工学会技術賞を受賞、平成元年には、土質工学会功労賞を受賞され、平成12年には地盤工学会名誉会員に推挙されました。

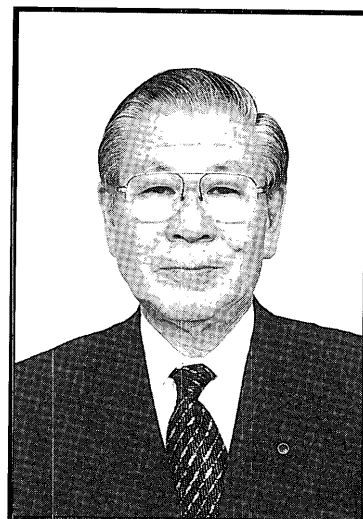
川崎さんは、地盤工学においては実プロジェクトに飛び込み、測定と体験を通して実現象を解明することが何よりも大切と、土質試験・調査に、載荷試験に、根切りの現場に、身を挺して活動されました。その一端は前述の「大口径グイの載荷試験方法と試験結果検討法の開発」としてまとめられ、土質工学会の技術賞に輝きました。また、昭和37年より土質工学会が鉄鋼6社からの委託で実施した鋼グイ研究委員会では、第2分科会（クイに作用する負の摩擦力に関する委員会）、ならびに第6分科会（鋼グイの適用性に関する委員会）の委員として縦横の活躍をされ多大な貢献をされました。さらに、軟弱地盤の改良は、港湾工事、大規模掘削工事に不可欠と、セメントスラリーを混合する改良工法の開発研究に熱心に取り組まれ、各所の港湾工事、陸上では大規模な開削工事に採用され、関西国際空港の二期工事にも一部採用されるなど、実用化に貢献されました。その成果は、「セメントスラリーを用いた深層混合処理工法に関する実験的研究」としてまとめられ、日本大学より工学博士を授与されるものとなりました。

そのほか、多方面にわたる研究、コンサルティング活動は枚挙にいとまがありませんが、建築学会、日本建築センターなどにおいても多大な貢献をされました。

警防団長を引き受けておられた父君が、台風の猛威の最中、人命を救助して自らは命を落されたという遺伝でもありましょうか、その性、豪放磊落、人のために親身になって労をおしまない、そのお人柄は、接するすべての人からの信望をあつめ、誠実、細心の心配りは、業務はもとより、個人の交際においても厚い信頼を得ておられました。

多くの地盤工学のプロジェクトに貢献され、多くの人々から愛され慕われた川崎さん、今少し長く生きて活躍いただきたかったと、しみじみ思う次第です。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。



（遠藤正明 地盤工学会名誉会員）
社団法人 地盤工学会